



TITLE:

静脩 Vol. 51 No. 4(2015.1)[全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 51 No. 4(2015.1)[全文]. 静脩 2015, 51(4)

ISSUE DATE:

2015-01-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193600>

RIGHT:

静脩

SEI-SHU

特集

院生対象 文系図書館合同ツアー報告 〈文・法・経・人文研編〉

CONTENTS

02：院生対象 文系図書館合同ツアー報告 〈文・法・経・人文研編〉

04：吉田文系図書館・室紹介

06：機構長からのメッセージ

07：紅コンテンツ紹介

08：図書館・室からのお知らせ

院生対象 文系図書館合同ツアー報告

<文・法・経・人文研編>

京都大学には 50 以上の図書館・室がありますが、なかには一度も足を踏み入れたことのない図書館や、ちょっと興味はあるもののなんとなく行きそびれている図書館があるのではないのでしょうか。図書館機構では、皆さんがまだ利用したことのない図書館を知るきっかけにしようとして、2014 年 10 月に 4 つの文系図書館をめぐる合同ツアーを開催しました。その内容を簡単にご紹介します。

1. 始まりは、院生の声から

2013 年夏、文系の大学院生より、「所属している研究科以外の図書館資料が必要になる機会が多いが、使い方がわからないのであきらめている」「関連分野の複数の図書館のガイダンスをまとめて受ける機会があったら研究を行う上で有用」という声を頂戴しました。お寄せいただいた声に注目し、院生の視点やニーズを反映しようと検討した結果、開催することになったのが今回のツアーです。

2. ツアー内容

2014 年 10 月 24 日（金）、10 月 27 日（月）の 14:45-16:15、同じ内容で 2 回開催しました。訪問先は、経済学研究科・経済学部図書室、法学部図書室、文学研究科図書館の学術雑誌閲覧室、人文科学研究所図書室の 4 図書館・室です。参加者はやや少なかったものの、それぞれの図書館・室では実際に図書館職員と書庫を歩きながら、書庫の使い方や蔵書の特徴についての説明を受けました。個別の資料を詳しく紹介する場面もあり、参加者は熱心に普段見ることのない珍しい資料に見入っていました。



法経北館 1 階のロビーに集合後、経済学研究科・経済学部図書室から合同ツアーのスタートです。



同じく法経北館の 2 階が法学部図書室です。

法経北館の書庫棟は法学部図書室と経済学研究科・経済学部図書室とで共用されており、階層によってそれぞれの図書室に分かれています。



合同ツアーのゴールとなる人文科学研究所図書室では、「静脩」Vol.51 No.3 で取り上げた「西川バリ 5 月革命文庫」や、中国の絵本「連環画」の紹介がありました。



3. 参加者の感想は？

アンケートでは、参加者の満足度は高く、「裏話も含め、初めて聞く話もあり、楽しめた」「修士論文の準備に役立つと思う」「院生向け企画が今後もあればよいと思う」などのコメントが寄せられました。具体的に、書庫で見つけた自らの研究に役立ちそうな文献名をアンケートに書いて下さった方もおられ、院生のニーズに合致した企画になったと思われます。

4. さいごに

院生の声から出発した合同ツアー、来年度も開催する予定です。時期は未定ですが、今回参加できなかった方や興味を持たれた方は、ぜひご参加ください！

また初めて訪れた図書館・室でも、利用者のみなさんが困ることがないように案内や広報に工夫を重ねておりますが、ご質問があればお気軽に職員へお尋ね下さい。もっと図書館に足をはこんで頂き、あなたにとってのお気に入りの図書館や役に立つ図書館を増やして頂けたら、とてもうれしく思います。



今回の合同ツアーでは、図書を所蔵する文学部校舎地下1階の文学研究科図書館ではなく、文学部東館3階の学術雑誌閲覧室を訪問しました。こちらの書架には雑誌が整然と配架されています。



吉田文系図書館・室紹介

文学研究科図書館

文学研究科図書館では、文学研究科の各専修が研究・教育のために収集した資料を所蔵しています。その内容は文学・言語学・歴史学・考古学など、多岐にわたります。古典籍などの貴重な資料も、実際に手に取って読むことができます。図書は文学部校舎地下1階の文学研究科図書館に、雑誌は文学部東館3階の学術雑誌閲覧室にあります。図書と雑誌で建物が異なりますのでご注意ください。



教育学部図書室

1階に入口とカウンターがあり、階段を降りた地下に閲覧室と書庫をもつ図書室です。資料は一部を除き書庫内で自由に手にとってご利用いただけます。教育学に関連する文献を中心に、近年は臨床心理学領域の文献収集にも力を注いでおり、変わったところでは絵本や児童文学も所蔵しています。

夏季及び冬季休業中、2・3月中を除き、火曜日と金曜日には19時まで夜間開室を実施していますので、ぜひ授業の後にもご活用ください。

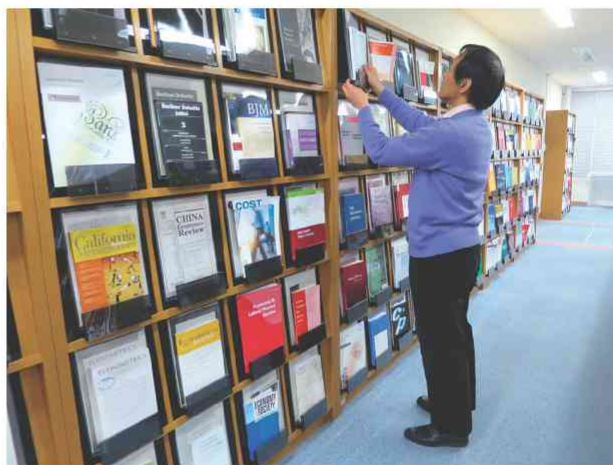
法学部図書室

法学部図書室は、京都帝国大学法科大学創立時（明治32年（1899）9月）に創設された歴史の長い図書室です。現在約72万冊を所蔵し、法学・政治学関係資料のみならず、哲学・歴史学・経済学など隣接領域の諸学問の資料も幅広く収集・提供しています。重要な基礎資料として日本及び各国の法令集・判例集・議会資料などがありますが、紙媒体資料からオンラインデータベースに置き換えて、全学利用に供するタイトルも増えてきました。また、近年、電子ブックなども積極的に導入し、書庫狭隘化の緩和を図るとともに、利便性の向上にも努めています。



経済学研究科・経済学部図書室

経済学と聞いてみなさんはどのようなイメージをお持ちになりますか。そのイメージのまま経済学部図書室の本棚を眺めてください。どうでしょうか。意外な本が見つかりませんか。経済学はとても幅の広い学問で、必要とされる文献資料も広い領域をカバーするものとなっています。つまり、経済学以外の学問にも有用な資料をたくさん所蔵しています。とても静かな 50 席の閲覧室をご用意して、みなさんのご来室をお待ちしております。



人文科学研究所図書室

現在、人文科学研究所には 60 万冊を超える蔵書があり、おおまかに、和洋書は本館、漢籍と中国書は分館（東アジア人文情報学研究センター）に所蔵されています。これまで当研究所に所属された先生方の個人研究、および学際的な共同研究の過程で多様な資料が収集されてきました。近代日本・東アジア、18～19 世紀のフランス語文献を豊富に揃えているほか、内藤湖南・松本文三郎・桑原武夫といった著名な研究者の旧蔵書もコレクションしています。

経済研究所図書室


経済研究所図書室は、附属図書館の西側、本部棟の正面に位置しています。小さい図書室ながら、経済学関連の専門書や雑誌だけでなく、経済学には欠かせない年鑑や統計資料を多く所蔵しています。

KULINE を検索していて所蔵館が【経研】となっていたら、それは経済学研究科ではなくこの経済研究所図書室のことです。書庫にも自由に入っていたいただけますので、どうぞお気軽にご来室ください。



これからの学問に向けた図書館の存在

図書館機構長 引原 隆士

 書館の歴史は、それぞれのコミュニティが次世代に引き継いで行くべき文字的資料を、真贋を見定めながら保存し、知識や知恵を引き継いでいくことを目的として、あるいは次世代の教育のために蓄積したところから始まっていることは知られるところです。この過程において資料を評価することは図書館の重要な業務の一つであったことから、派生的に新たな学問分野が形成されて来たことも明らかです。過去において学問を志す者が必ず覚える必要があった知識が、図書館の利用法でした。一方で、世界の動乱期には政治、宗教などの強者の側の論理で資料が選別され、あるいは収奪され、コミュニティの地位を正当化することを裏付けるために供されたことは想像に難くありません。

さて、現代においてあるべき図書館像についての議論が、高等教育のあり方と合わせて再び議論されています。明らかに、図書館は学術情報流通の要として今もありますが、今では既に図書館を経なくても多くの資料が手に入る状況になって来ています。むしろ、在野のあるいは街場の資料は膨大にネット上に存在し、それらの資料を無視することはできない状況とも言えます。知識を学習することから始まったとしても、その知識が有効な範囲を資料の真贋が本当の意味で保証する方法と共に評価を与えなければなりません。そのことが図書館という機関の重要な機能だと言えます。その意味で、既存の学問の手法の大きな危機に文系、理系関係なく直面しているという理解を共有できれば幸いです。

図書資料は、著者と読者の対話を前提として対話から課題と方向性を見出した時に新しい踏み台にできることにその存在意義があります。一方的な価値の盲目的な信奉は慎むべき態度です。言い換えると、過去の論述、データを全て精査し直した所からのみ新しい方向性が生まれます。しかしながら、今は一つの図書館だけではそのような活動を完成することができません。図書館を中心とした真贋を保証した資料を、どのように多角的に、

有機的に生かすかが重要となります。今では、一人が何年も掛かった作業がオープン化により同時並行に実施されることで加速されます。そのような作業の連携拠点となることが図書館の次の時代へ向けた活動になるのではないのでしょうか。オープン化を大学という知の生産拠点に置き、単に情報だけでなく物理（もの）にまでつなげた上で、常にその知をフィードバックして検証し、新たな知を提示することが必要です。一般の公立図書館とも連携を取り、常に高いレベルの資料に触れて行ける環境をユビキタスに生み出し、既定路線だけではない教育の機会を開放することもできます。今、多くの科学技術雑誌の編集のあり方も同じ論理で問われています。本当に必要なものは、うまく行かなかったデータであることもあります。従来の新規性、独白性、有用性という価値を一握りの専門家が本当に人類のためになるものかを判断できるかということともいえます。

どんなシステムでも確立したものは陳腐化（定常化）します。それを考えた時、原典に戻る、原点を見直す、そしてこれまでの道に書かれていないものを見出すことを支援する場所が、図書館を中心とする学術ネットワークになるのではないかと考えます。これは簡単な様で難しい運営だともいえます。最も大切なことは、求められる図書館・学術ネットワーク自体を、利用者自ら人頼りにせず、かつ主体的に関与して作り上げなければ、器に収まる資料そのものが客観性を失ってしまう危険性を孕むことを常に意識することです。つまり、図書館・学術ネットワークの器に収まる資料、データのあり方が器による恣意的な方向付けを受けかねないのです。であるからこそ大学図書館はリベラルアーツの牙城としてあらねばならないのです。利用者の学生・研究者の皆さんが望む図書館への思いが、このシステムを正しく進化させる唯一の推進力だと考えます。

（引原隆士工学研究科教授は、図書館機構長および附属図書館長に再指名されました。任期は平成26年10月1日から2年間です。）

荒井 修亮 (フィールド科学教育研究センター教授)

“Proceedings of SEASTAR2000 workshop”

Publisher: Graduate School of Informatics, Kyoto University

継続後誌 : Proceedings of the Design Symposium on Conservation of Ecosystem (2013)(The 12th SEASTAR2000 workshop)

<http://hdl.handle.net/2433/44071>



SEASTAR2000 は South East Asia Sea Turtle Associative Research since 2000 の略称です。話は、恩師坂本亘先生（京都大学名誉教授）が当時、農学部でウミガメの研究を、和歌山県で行われていた頃にさかのぼります。

1996 年、エビ・ウミガメ事件と言われる事件が起きました。これは東南アジアにおけるエビ漁業をめぐる大事件です。タイを含む東南アジアの諸国ではエビは重要な輸出品としてその多くが米国や日本などに輸出されて貴重な外貨を稼いでいました。ところが突然、米国はその輸入を禁止する措置を行ったのです。その理由は、ウミガメを混獲する漁法で漁獲されたエビは輸入することができない、ということでした。

当時、タイのエビの輸出は総額数百億円の規模で行われており、その筆頭が米国向けだったため、タイ国水産局はこの対応に苦慮することとなったわけです。タイ国水産局は、生息するウミガメ（アオウミガメ、タイマイ）は、米国で問題となったウミガメ（ケンプヒメウミガメ）とは異なり、食性が違うためにエビを混獲する可能性が低いことなどを主張しました。しかし、アオウミガメやタイマイのタイ国海域における回遊経路については、全く知見がなく、エビ漁業の漁場との重複から生じる混獲の可能性を否定することはできない状況でした。

このような背景の中で、日本でアカウミガメの回遊経路を研究していた坂本先生に調査の要請がなされたわけです。先生はそれに応じてアルゴス

送信機（人工衛星で野生動物を追跡するシステム）を手に、タイでウミガメの追跡実験を行うことになりました。ここに京都大学とタイ国水産局（現海洋沿岸資源局）とのウミガメ共同研究が始まりました。

我々の共同研究にはタイだけでなく、バンコクに本部がある国際機関（東南アジア漁業開発センター）が参画しており、関係諸国に研究が紹介されることになりました。そして研究集会の開催を企画する機運が高まり、1999年に京都（芝蘭会館）で第1回の研究集会を開催することとなり、ウミガメの保護に関する研究報告が行われました。参加国はタイ、マレーシア、日本（京大、東大）とコンパクトな国際研究集会でしたが、報告書は査読付きのプロシーディングスとして取りまとめ、関係国の研究者、行政官、NPO 関係者が参照することができるようになりました。

幸い、科研費の海外学術調査ならびに 21 世紀 COE およびグローバル COE の課題として取り上げられ、ウミガメだけでなく、広く東南アジアでの水圏生物の保護と人間との共存に資するテーマを研究課題として 10 数年に亘って継続的な研究と国際研究集会の開催を行うことができました。主なテーマは、ウミガメ、ジュゴンを含む海産哺乳動物、メコンオオナマズを含む魚類、環境教育などです。現在はリーディング大学院デザインスクールのシンポジウムとして引き継がれ、それぞれの国に応じた生態系保護のデザインを提案し、対策を講じるための議論を行っています。

京都大学学術情報リポジトリ KURENAI とは？

京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

リポジトリとは「保存庫」という意味で、京都大学の博士論文や先生方が書かれた論文、紀要などを収録して、web で世界中からアクセスできるようにしたデータベースです。

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



図書館・室からのお知らせ

■ 附属図書館で KURA Desk & KURA WorkShop がスタート！

KURA Desk は、毎週月曜日午後15時にラーニング・コモンズでオープン。研究支援の専門職 URA が研究プロジェクトの活性化からプレゼン資料のブラッシュアップまで、様々な相談に応じます。また、研究者スキルアップを目指す KURA WorkShop も随時開催されます。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1550>

図書館機構



■ 図書の展示を行っています

所蔵する図書を様々なテーマから紹介する展示をしています。最近の企画では、「“演習”を決める前にチェックしたい本」(経済学部図書室)、「農度 100%：シラバス図書から知る農学」(農学部図書室)、「大学生にすすめる本 東南アジア編」(附属図書館)など。いずれも既に終了していますが、ウェブページには紹介図書リストが掲載されています。また、これまで展示された図書には、KULINE 上でレビューやタグが付されているものもありますので、併せてご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1526>

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1535>

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1564>

図書館機構



■ 学生希望図書の購入申し込み制度をご存じですか

複数の図書館・室で、学部生・院生の方から、学習研究用の蔵書としてふさわしい図書の購入リクエストを受け付けています。申し込み方法や条件は、次の案内をご覧ください。

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/newdb/list.php?id=15&cn=100&sort=52&sort_method=asc&item=0&ml_lang=ja

図書館機構



■ 国立国会図書館「歴史的音源配信提供サービス」が利用可能に

附属図書館で「歴史的音源」(1900年-1950年頃の国内SP盤等に収録された約5万点の音楽・演説等のデジタル化音源)を聴くことができます。詳しくは次の案内のとおりです。

http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/guide/jpn/guide_jp_ndlrekion.html

附属図書館



■ ウイルス研究所図書室の閉室について

2014年11月末日をもって、ウイルス研究所図書室は閉室しました。

京都大学図書館機構報「静脩」(ISSN 0582-4478)

Vol. 51 No. 4 (通巻 184 号) 2015 年 01 月 31 日発行

編集:「静脩」編集小委員会(責任者:附属図書館事務部長)

発行:京都大学図書館機構

京都府京都市左京区吉田本町 36-1

TEL 075-753-2613

URL <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

表紙題字:附属図書館所蔵 西園寺公望公揮毫

今月の表紙

院生対象文系図書館合同ツアーの舞台となった経済学研究科・経済学部図書室の書庫を撮影しました。

今号の特集が、図書館・室まで足を運んでいただくきっかけとなることを願っています。

